

臨床にありふれた多元的治効要因の 人間科学的考察

～変形性股関節症患者の語りの分析から～

○小川貴司¹⁾ 鈴木勝巳²⁾ 伊東純一³⁾ 荒木誠一⁴⁾

1)小川鍼灸整骨院

2)早稲田大学人間科学部学術院健康福祉科学科・健康生命医科学領域(医療人類学)

3)カナエ整骨院

4)帝京平成大学地域医療学部

1. 目的

臨床での鍼治療は既存の理論のみならず、患者の多様な主観性によっても構成されている。



上の臨床場面では治療の多元性が存在している



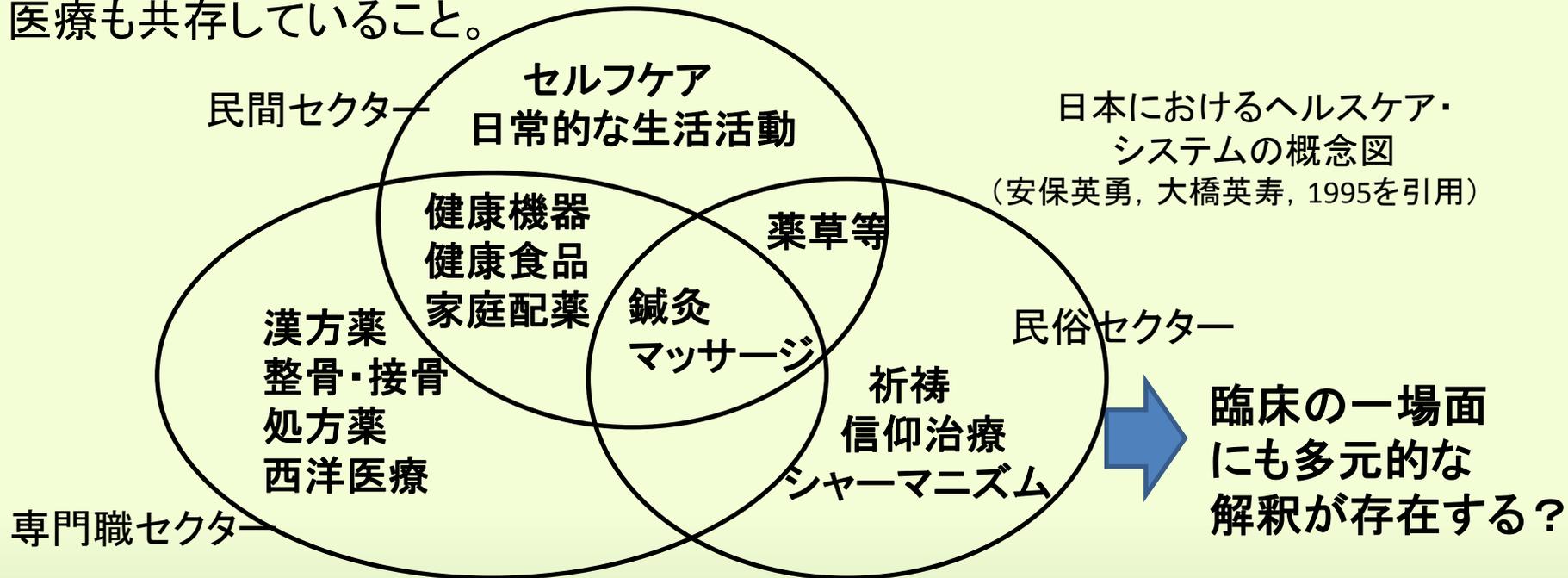
治療の多元性(多元的治療要因)を人間科学的に考察する

2. 目的

多元的治効要因とはヘルスケアシステム (Kleinman1980) にヒントを得た造語

ヘルスケアシステム

どの文化社会にも近代西洋医学が正統医学として存在しながらもそのほかの医療も共存していること。



本稿では、臨床で患者が訴える治効の解釈に用いることができる複数の学問的要因を「多元的治効要因」として扱う。

3. 対象

患者： 87歳女性(右変形性股関節症)

主訴: 両下肢の痛み(右>左)

理学所見	
大腿周囲径	右: 39cm 左: 41cm
下肢長	右: 80cm 左: 83cm
脊柱側弯	+
安静時・夜間・歩行痛	±



対象とした理由:

治響きのある治療を好み、治療中に主観的な治効の判定をよく発話するため。

調査当日も

「今の鍼、よう効いたわ」

と効果を言語化

4. 対象

患者の背景

大正15年に韓国で出生。早くに父親を亡くし4歳のころに母親と来日。衣料仕立職人の母親と共に生野区御幸森で幼少期を過ごす。今の高校に相当する商業系の学校を卒業後、植民地時代の韓国ソウルで事務員として就職。帰国後に結婚。嫁ぎ先はレンズの製造業で、夫と共に、高度経済成長期の中、勤勉に働いた。夫は晩年、椎間板ヘルニアで苦しみ、本人も現在の腰痛・股関節痛を持つが、その時の無理が影響していると語る。創価学会に入信しており、姑と夫の病気が信仰によって軽減した経験を持ち、篤い信仰心を持つ。

受療の遍歴

10年前(77歳時)に整形外科にて右変股症の診断を受ける。その後、手術を勧められるが拒否。整形外科で物理療法を行いながら整骨院、鍼灸院に通院。その間に雑誌記事で見た整体師の元で運動療法を受療。そこで初めて響きを伴う鍼治療を受療し、症状が劇的に軽減した経験を得る。その後、整体師に近隣の2次医療機関を紹介され、1年間のリハビリに通うも効果なし。3年ほど前より、歩行が困難となり、押し車が必要になってきたことから、自宅からもっとも近い当院で鍼治療を受療。同時に整形外科(腰痛・膝痛)、整骨院(他院)、整体院を受療している。

5. 方法

②録音をテープ起こし、
会話分析・質問作成



③質問を元に半構造化
インタビュー・録音



①臨床場面
会話の録音

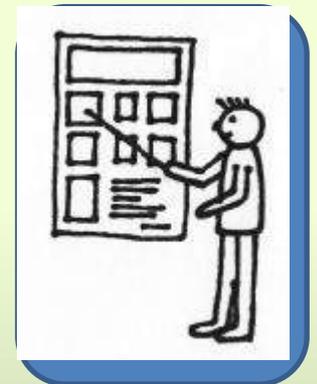


治療は圧痛部位に響きを
与える鍼治療(置鍼10分)

④得られたデータを元に
治効の多元性とその
要因を分析・考察



発表



6. 方法

	時間	字数	①での会話と③で行われた主な質問
①臨床場面での会話(フリートーク)	45分55秒	14690	<ul style="list-style-type: none">・施術中に得られた響き・鍼の効果・過去の生活(労働)・冷えると痛みが出る・押さえて痛く感じることの意味・手術を拒否する理由・過去の治療経験・鍼治療の経験・自分の宿命・信仰・マイペースな自分の性格
③インタビュー(半構造化)	1時間6分10秒	22647	<ul style="list-style-type: none">・過去の病気の経験は?・変股症の説明モデル・響く所は悪い所?・過去の治療経験は?・響くところに鍼をうつべきと考えるか?・先生という立場の人についての考え・整体師との関係性・響きとは?・腰痛と股関節痛の関係・健康と信仰の関係・病院でのリハビリの効果・子供時代から現在までの自己分析

7. 結果

語りの分析(主観性の分析)から

治効要因①: 圧痛点への治療的信念

治効要因②: 鍼治療への信頼

治効要因③: 患者の健康生成論的気性

が抽出された。

8. 考察

鍼の響き(得気・鍼感)を扱った本事例の治効の
解釈に妥当と考えられる**既存の治効理論**



~トリガーポイント理論~

e.g. 「実験的トリガーポイントモデルから記録された
電気活動に対する検討」(伊藤. 2002)

多元的治効要因の一つと位置付けることができる。

本発表では臨床家の立場から、患者の主観により
構成される次の①~③の治効要因に注目する

9. 考察

治効要因①: 圧痛点への治療的信念

～圧痛点への治療的信念が見られる語りの例～

「やはりそこがつまってるか、血の通りが悪いか、何かがあるから、痛みが出るんやろと、感覚的にねえ、感覚的に、そう、自分で思いますねん」

「だけれども、それ、まあ、そういうふうなところを先生がしたらね、痛いところをしたら、やっぱり、それで、だいぶん治まりますからね、」

「そこのぴゅっとしたところ、一番痛いところがね、その、鍼を刺すとね、と、あと、こっちの痛みまでもとれてきたんや、だから何かその、ね、その、一本の線がね、ずっと通じてるんじゃないかなと、」

10. 考察

治効要因①: 圧痛点への治療的信念

～説明モデルと臨床リアリティー(Kleinman . A 1980)～

治療者、患者にかかわらずそれぞれは、それぞれの文化社会で常識とされる合理性、または個人の経験における合理性に従って疾患または病いを説明し、その説明の元に現実としてとらえている。

	本事例	例:(ホンジュラスのエパンチョ)
説明モデル	血の通りが悪いから痛みが出る→圧痛点に鍼を刺すと痛みが通る→通った結果、「痛みがなくなる」	エパンチョは下痢の意。文化的に規定される「熱い」「冷たい」食べ物の食い合わせによって起こる。(池田2001 p158)
臨床リアリティー	患者は上記を当然の現実として構成している。	当該文化内では、これが当然の現実と構成されている。

11. 考察

治効要因②: 鍼治療への信頼

患者は過去の鍼治療の経験から鍼治療に強い信頼を置いていた

～信頼(信仰)によって効力が発揮される治療の学術的分析と本事例の対比～

呪術が効力を生む条件	対象における状況及び語り
1 当該社会集団が(呪術に対して)抱く信頼と要求がある	日本社会における鍼灸医療の存在とその価値・西洋医学以外の治療法への要求
2 (患者や被害者が抱く)呪術師の術の効験に対する信仰がある	「やっぱりそれだけ勉強しはった、ね、それに関してしはった先生やなあって思うからね、やっぱり先生は尊敬します」
3 呪術師の自分自身の術に対する信仰がある	この整体師は自らの理論を本として出版している

(池田光穂: 心霊治療におけるトリックとモラル; 文化現象としての癒し: 佐藤純一(編)2000)



鍼治療に対する信頼の条件がそろっていたために
治効が発現したとも考えられる

12. 考察

治効要因③: 患者の健康生成論的気性

ユダヤ人迫害でのつらい経験を持つ更年期女性の健康調査の中で、7割の人が健康に問題を抱える中、3割の人が健康を維持していることに注目し、その要因を探った結果、導き出された理論

SOC (sense of coherence) コヒアレンス感

Comprehensibility (理解可能性)

: 人生における出来事は秩序づけられ、予測可能で説明可能である。

Manageability (処理可能性)

: 人生の出来事から生じる要求に対応するための資源を自在に用いることができる。

Meaningfulness (有意義性)

: この要求は投資や関与に値する挑戦である。

健康社会学者 アントノフスキーによるAntonovsky (1979)



患者のSOCが主観的な健康回復に大きく関連する

山崎喜比古他(編): ストレス対処能力. P136 2008

13. 考察

SOC (sense of coherence)	臨床で患者にみられたSOCの傾向
Comprehensibility (理解可能性) : 人生における出来事は秩序づけられ、予測可能で説明可能である。	「だから、鍼の効き目はね、わたしようわかりますねん」
Manageability (処理可能性) : 人生の出来事から生じる要求に対応するための資源を自在に用いることができる。	患者は一次・二次医療機関、整骨院、鍼灸院など利用可能な医療を自主的に選択し、積極的に利用している。
Meaningfulness (有意義性) : この要求は投資や関与に値する挑戦である。	「自分のこと自分でできるようなことを、ずっとね、続けたいんですわ、寿命のある限りは、やりこなしていきます」

高いSOC がインタビューから確認できた。

↳ 痛みに対する認識をポジティブにしている？

↓

鍼治療に対してもポジティブな印象を構成している可能性あり

14. 考察

① 圧痛点への治療的信念



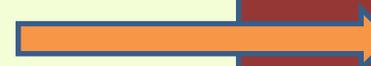
人類学

② 鍼治療への信頼



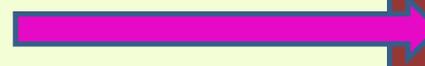
人類学

③ 患者の健康生成論的気性



社会学

④ トリガーポイント理論



医学・生理学

人間科学的考察

(人間科学的考察)

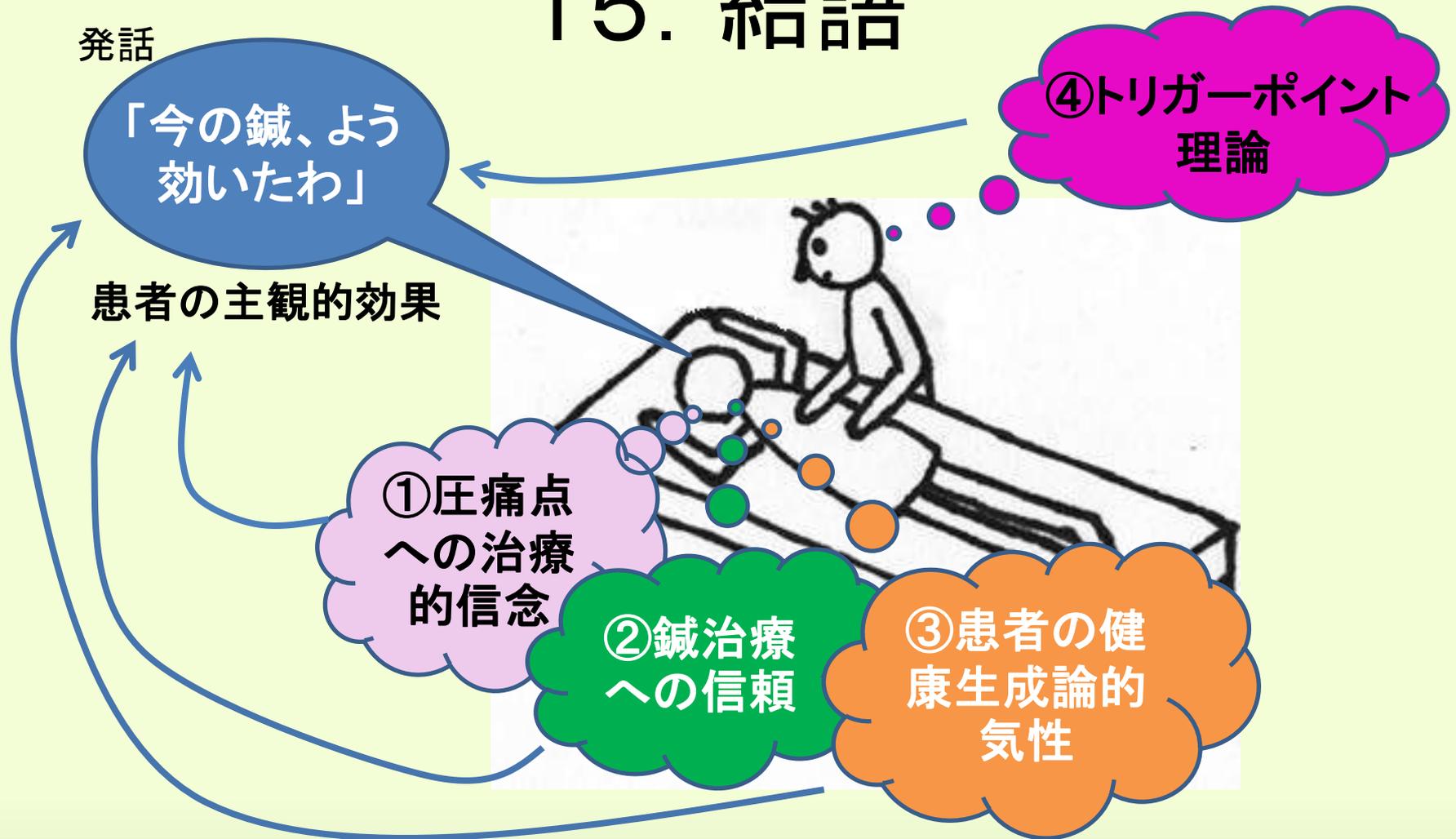
人間科学とは(沢田允茂. 1981)

「異なった専門領域の異なった科学的知識が特定の社会集団のある目的達成に効果的に使用しうるということである」



鍼灸臨床においても患者の **主観的効果** を分析する上で重要

15. 結語



治効要因は一元的でなく、患者の主観性も交えて多元的に存在しえる